

1. 三角地域

地域の現状から見た課題

- 定住化の促進とコミュニティの維持
- 集落地の生活サービスの維持
- JR三角駅周辺における日常生活に必要な都市機能の維持・向上
- 熊本・宇土方面、上天草・天草方面をつなぐ立地を活かした産業の振興
- 自然環境と交通インフラを活かした観光の振興
- 豊かな自然・景観資源の維持・保全・活用

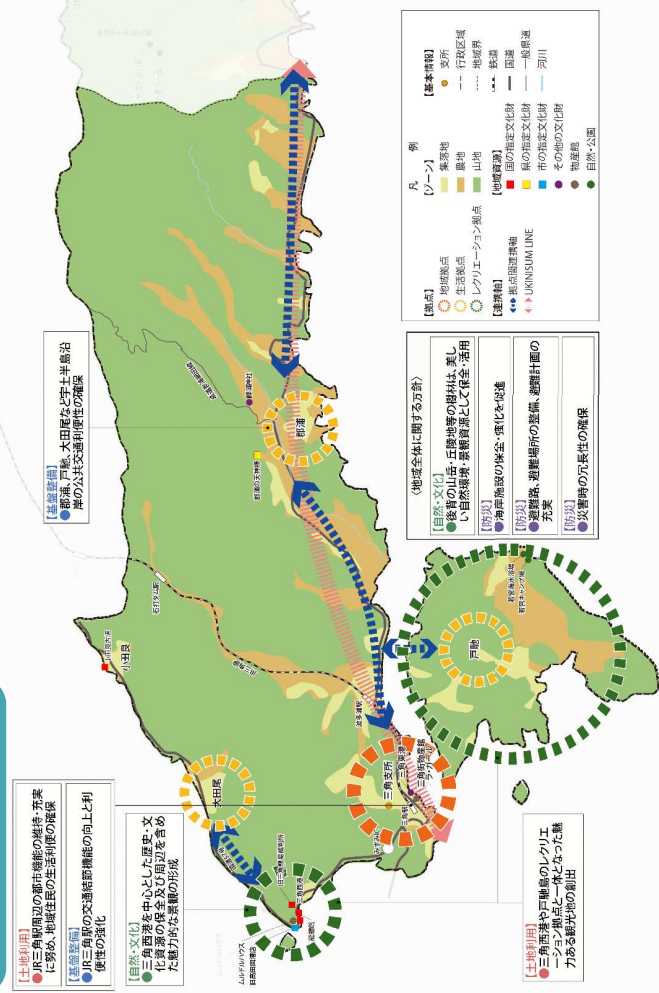
市民アンケート結果から見た課題

- 身近な生活支援機能や交通利便性の向上
- 居住環境の整備による定住化促進
- 自然・景観資源の保全と活用
- 地域防災性の向上

地域づくりの将来像

歴史・自然を活かした交流がおりなり
人々にやさしい暮らしができるまち

地域づくりの将来像



▲三角地域の地域づくり方針図

2. 不知火地域

地域の現状から見た課題

- まちなか居住の促進による人口密度の維持
- 集落地の生活サービスの維持・確保
- 都市拠点であるJR松橋駅周辺への都市機能集積
- 不知火海の海岸景観や山岳景観の維持・保全・活用
- 都市拠点へのアクセシビリティの向上
- 街地や集落地の防災対策の推進

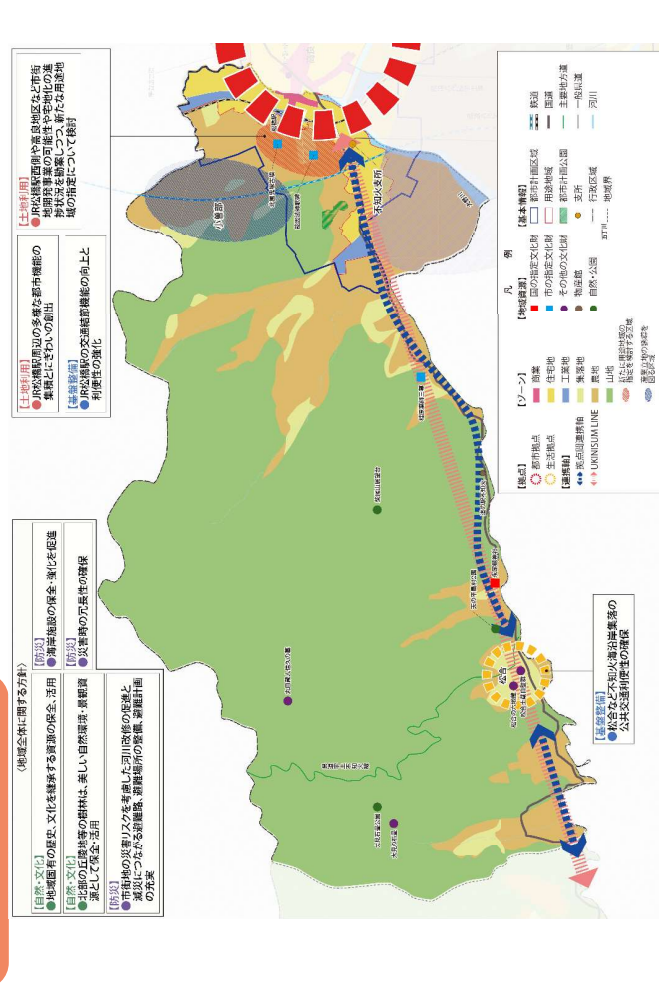
市民アンケート結果から見た課題

- 郊外部の公共交通の利便性向上
- 無秩序な開発の抑制
- 歴史・文化、景観など地域資源の活用
- 地域防災性の向上

地域づくりの将来像

不知火海の文化が彩る
市の玄関口にふさわしいまち

地域づくりの将来像



▲不知火地域の地域づくり方針図

3. 松橋地域

地域の現状から見た課題

- まちなか居住の促進による人口密度の維持
- 生活利便性の向上と居住環境の充実によるまちなかの居住の誘導と賑わいの創出
- 用途地域・緑辺部の無秩序な市街化の抑制
- 松橋 IC 周辺の利便性を活かした工業・流通産業の立地促進
- 人口が集中する市街地の防災対策の推進

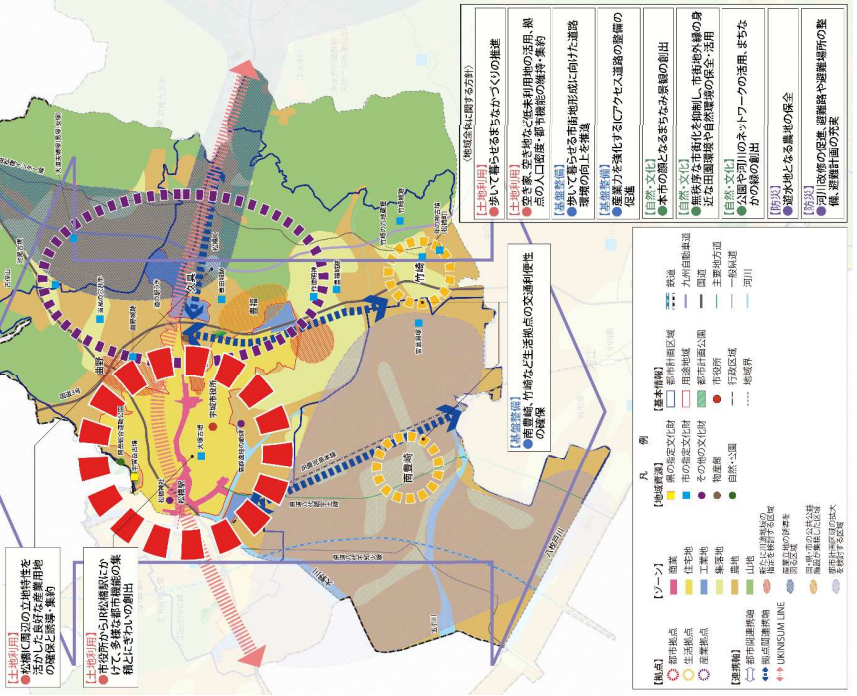
市民アンケート結果から見た課題

- 公共交通の利便性向上
- 身近な生活支援機能や住環境の維持・強化
- まちなみ景観づくり
- 災害を未然に防ぐ防災対策

地域づくりの将来像

宇城市の発展を
けん引する
多様な都市機能が
集積した活力ある
まち

地域づくりの将来像



▲松橋地域の地域づくり方針図

4. 小川地域

地域の現状から見た課題

- 生活利便性を活かした定住促進と人口集積
- 小川駅周辺と国道3号沿道大規模商業施設や支所周辺とのアクセス性向上
- 市街化が進む小川駅から小川支所周辺の土地利用誘導策の導入
- 永川 SIC の利便性を活かした工業・流通産業の立地促進
- 人口が集中する市街地の防災対策の推進

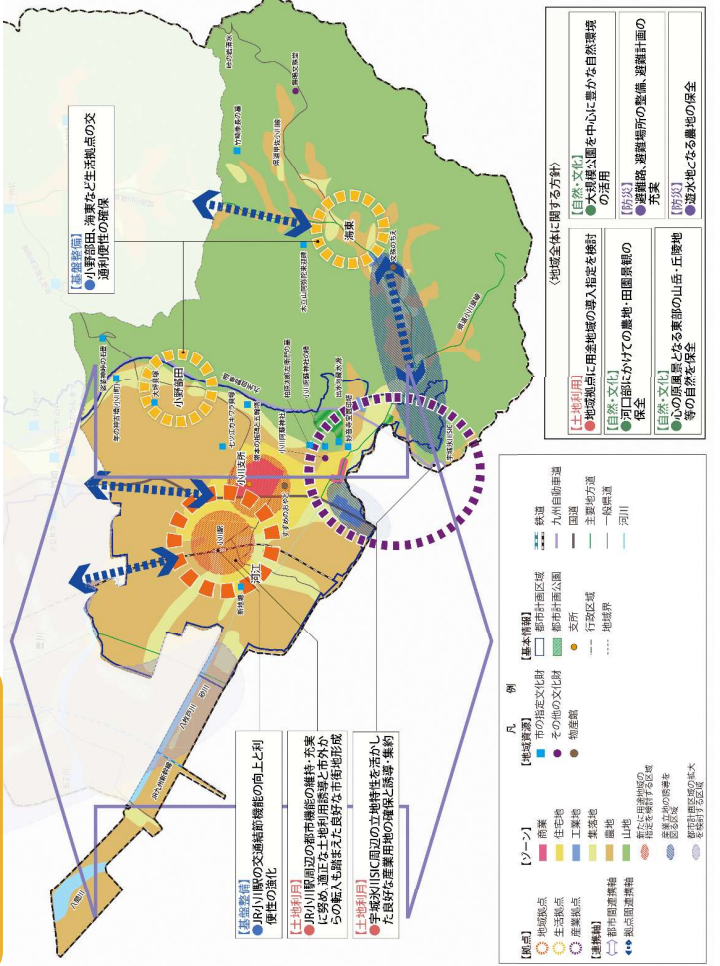
市民アンケート結果から見た課題

- 公共交通の利便性維持
- 居住環境の整備による定住促進
- 田園・農村景観づくり
- 安全な避難につながる基盤整備

地域づくりの将来像

田園とまちなかが共存する
交通利便性の高い誰も住みよいまち

地域づくりの将来像



▲小川地域の地域づくり方針図

5. 豊野地域

地域の現状から見た課題

- 定住化の促進とコミュニティの維持
- 支所周辺における日常生活に必要な都市機能の維持・向上
- 都市拠点へのアクセシビリティの向上
- 田園集落環境の維持・保全

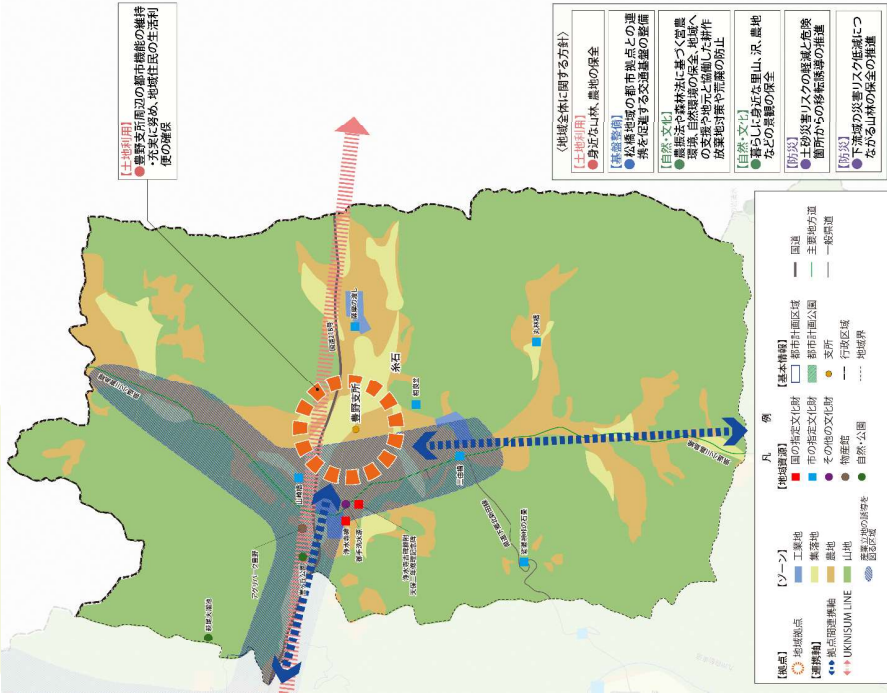
市民アンケート結果から見た課題

- 身近な生活支援機能や交通利便性の向上
- 公共施設や基盤整備など公的サービスの向上
- 自然環境や営農環境の維持と活用

地域づくりの将来像

豊かな里山と
ふれあう
ゆとりと潤いを
感じるまち

地域づくりの将来像



▲豊野地域の地域づくり方針図

1. 都市計画における整備の基本的考え方

まちづくりの上で解決すべき課題は、社会情勢や地域情勢により多岐にわたるため、整備の緊急度・効果・難易度等を総合的に検討するとともに、十分な合意形成を図ることが重要です。

また、実現可能性の高い事業等から取り組むだけでなく、まちづくりの上で必要不可欠な整備等については、積極的に取り組むことを検討します。

2. 協働のまちづくりに向けた各主体の役割

【市民】 市民は地域づくりの担い手として、まちづくり活動への主体的な参加が求められます。	【事業者】 まちづくりの担い手の一員であるという意識を持ち、地域のまちづくり活動等に積極的に参加・協力することが求められます。	【教育機関】 まちづくりの方向性等に対する助言・提案等を行うとともに、地域のまちづくり活動等への支援・参加が求められます。	【行政】 各種事業の効率的・効果的な実現手法を検討するとともに、都市施設や都市基盤等の適切な維持・管理を担います。
--	---	---	---

3. 実現に向けた施策展開の方向性

重点的に進めるべき施策を明らかにし、計画的・効率的な事業の推進、地区主体のまちづくりの促進を施策展開の柱とし、計画の進行管理と評価を実施し、都市整備の実現をめざします。

4. PDCA サイクルによる計画の見直し

地域の実情・変化・整備状況などを把握するとともに、国・県や庁内関係各課の各種事業、事業者の実施事業等と横断的な計画の管理を行います。また、本マスタープランは、概ね20年後のまちづくりを見据えた計画ですが、都市計画基礎調査の内容を検証し、上位計画との整合を図るとともに、社会情勢の変化に対応するため、概ね10年ごとに計画の見直しを実施します。

5. 今後の課題

1) 都市計画の体制づくり

市民に対してまちづくりのPRや将来像の提示を行い、まちづくりに参加できるような体制づくりを促進していきます。また、市民、事業者、教育機関、行政のそれぞれの役割分担を明らかにするとともに、相互の協働による都市づくりの推進を図ります。

2) 個別計画、事業実施段階における市民参画の推進

市民と行政の双方による自主的なまちづくりを支援する仕組みづくりを行います。また、市民意向の把握の開催手法、周知方法、開催時間等の工夫により、若い世代も含めた幅広い意見聴取ができる機会の創出を図ります。

3) 各種関係機関との連携

行政は庁内の関係各課との連携を図り、まちづくりに関連する個別計画との整合性を考慮し、総合的・一体的な取組を行います。また、地域情報の把握に関しては、社会福祉協議会やまちづくり組織などの各種団体への意見聴取や活動支援を行うことで、市民協働のまちづくりを推進します。